

【繁殖用後継牛生産】給与プログラム

月齢	体重kg	体高cm	哺乳	ハイパスフード40 (kg/日)	名人ぐんぐん (kg/日)	繁殖めいじん (kg/日)	乾草 (kg/日)
0	31	71.2	○	0.1			少量
1	49	78.1	○	0.5			少量
2	71	84.2	○	1			少量
3	97	89.5	離乳	1.5			1
4	126	94.3			2	1.5	
5	157	98.4			3	2	
6	189	102.1				2	
7	221	105.4				2.5	
8	253	108.2				2.5	
9	283	110.8			1	3	
10	311	113.0				3.5	
11	336	114.9				4	
12	360	116.7				4.5	
13	381	118.2			*体高118cm 以上で種付開始	5	
14	399	119.6				5	
15	415	120.8				5	
16	430	121.8			なし	5kg以上	
17	442	122.7					
18	453	123.6					
19	462	124.3					
20	470	124.9					
21	477	125.5					
22	483	126.0					
23	487	126.4					
24	492	126.8					

*分娩24～25ヶ月

*発育値は日本飼養標準肉用牛(2000年版)より引用。

管理のポイント

- (A) (0～3ヶ月齢)親に付けて哺乳しているときから、「ハイパスフード40」を食べさせます。
 ⇒ 子牛の胃袋を発達させるので、離乳してからの発育がスムーズになります。
 ⇒ 下痢、軟便の予防に役立ちます。
- (B) (4～9ヶ月齢)「名人ぐんぐん」を定量給与し、良質の、できるだけ細断した乾草を腹いっぱい食べさせます。
 ⇒ パイパス蛋白源給与でフレームを大きくし、乾草で胃袋を大きくします。
- (C) (10～15ヶ月齢、種付前後まで)「名人ぐんぐん」+「繁殖めいじん」を給与します。
 ⇒ 「繁殖めいじん」に含まれるビタミンAや有機ミネラルは、繁殖成績の向上に役立ちます。
 ⇒ 無駄肉の付着に注意し、コンディションを見ながら、配合の量を調節しましょう。
- (D) (種付後～22ヶ月齢)
 ⇒ 太りすぎに注意し、配合の量を調節します。
 ⇒ できるだけ運動させ、乾草を十分に食べさせます。
- (E) (分娩前2ヶ月間)
 ⇒ 分娩に備えて、コンディションを見ながら増し飼います。